

## 令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 01	学校名	宮城県大河原産業高等学校	担当教員名	佐藤 雄
ねらい	<input type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進 <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <input type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	知的財産権とは	企デ科 3 年生・商デⅢ	6, 7	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	商標権を取得する意義や目的	企デ科 3 年生・商デⅢ	1,2,3,4,10,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	「デザイン」をする上での心構え	企デ科 3 年生・商デⅢ	1,2,3,4,10,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知財学習先進校の取り組み	企デ科 1・2・3 年生・商デ	1,2,3,4,10,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	商標権を取得するメリット	企デ科 1・2・3 年生・商デ	1,2,3,4,10,11,12		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	事例から学ぶブランディング方法	企デ科 3 年生・商デⅢ	1,2,3,4,10,11,12	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	商標権取得のためのアイデア出し	企デ科 3 年生・商デⅢ	1,2,3,12		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	商標権取得のための申請方法について	企デ科 3 年生・商デⅢ	1,2,3,9,12		<input type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	商標権、取得後のブランディング実践	企デ科 3 年生・商デⅢ	1,2,3,12		<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩				活用	<input checked="" type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬					<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7 割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	外部講師を活用した講義を 4 回実施することができた。 デザインを学ぶ生徒にとって、自分のデザインを守るのも大切だが、他人の創作物を侵害しないことが一番大切であることを学ぶことができた。また、商標を取得する上で、今後のブランディングについて考えることができた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師派遣を 4 回実施することができた。（内訳：Canva クリエイター荒井様、弁理士丸林先生（3 回）、本校アドバイザー）</li> <li>・商標権申請手続きについて実践することができた。</li> <li>・アイデア出しを実践し、プレゼン能力、創造性を身につける学習ができた。</li> <li>・生徒の創作物に意義や目的、クライアントの要望に結びつけながら制作することができた。</li> <li>・他人の創作物を侵害しないようにデザインするようになった。</li> </ul>				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	②③④⑤⑧・外部講師による講義				
成果内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色である 6 次産業化を進めていく上で、知財学習は大変有意義なものであると感じた。</li> <li>・自分達の知的創造物を守るのも大切だが、何より他人の創作物を守ることがデザインする上で、最も大切なことを知ることができた。</li> <li>・知財学習を学ぶことで、モラルの助長につながると感じた。</li> </ul>				
生徒・学生に見られた変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインに意図と目的、相手の立場になって制作することができるようになった。</li> <li>・他人の創作物を侵害しないために、J-PlatPat の活用など、事前に調べるようになった。</li> <li>・他人の「思いやり」、「協働する力」が身についた。</li> </ul>				
その根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にデザイナーとして活躍されている方の講義を受け、生徒の学習活動に変容が見られた。</li> <li>・弁理士さん、アドバイザーからの講義を受け、商標の重要性について知り、帰属意識を高めることができた。</li> </ul>				
課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知財学習について、もう少し早い段階（2 年次）に実施できれば、3 年次には、商標を意識したブランディング方法を実践できると感じた。</li> <li>・次年度は、本校で取得した商標をブランディングしていき、6 次産業化をさらに進めていきたい。</li> </ul>				
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知財学習を通して「誇り」と「責任」を持てる生徒の育成を進めていきたい。</li> <li>・商業科だけでなく、農業科とも協働して進めていきたい。</li> </ul>				

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 「デザインの心構え」講義



(写真2) 「商標権とは」講義



(写真3) 「商標権の申請」講義



(写真4) ジグソー活動



(写真5) クライアントヘインタビュー



(写真6) 6次産業化商品

(生徒の感想一部抜粋)

- ①商標をとった先生からお話を聞くことができうちの学校でもできるかもしれない、とより現実的に感じる事ができました。手続きにはやるべきことが多かったり、審査が通るか通らないかなど時間がかかることを知りました。商標は将来的にも知ってた方が得だと思うのでこれからそういう場面になったら上手く活用していきたいです。
- ②自分たちはこれから大産商店のためにやれることは少ないけれども、これまで手伝ってきた経験を生かして、プレゼンすることはできるかなと感じました。大々的に活動することは後輩に任せて、自分たちはまず大産商店の名前の株を上げることに専念した方が良いと思いました。
- ③大産商店の強みや、作られた理由が学科が違っても一つの目的に向かって取り組むことができること、三学科連携ということを知りました。確かにうちの学校ならではだと思えます。新鮮な野菜などが安く買えることなど、より多くの人に知ってもらって親しみやすい事業になればいいなと思えます。

(特記すべき取組と成果)

「大産商店」の商標取得に向けて

本校は、令和5年4月に、旧宮城県大河原商業高校と旧宮城県柴田農林高校が再編統合し、宮城県南部地区職業教育拠点高として開校した高校である。開校から3年が経ち、農業科と商業科が共に、協働しながらこれまで学校を創ってきました。開校当初から、学科間連携の目玉である「大産商店」を開設し、農業科で育てた野菜や果樹、加工品等の販売してきた。商業科は、販売と企画を行い、特に商業科の企画デザイン科では、商品のパッケージデザインやネーミング、商品開発等を行ってきた。また、地域から期待の声も多くあり、少しずつではあるが、「大産商店」の屋号も広まりつつある。今後も学科間での連携、地域との関わりをこれまで以上に強固にするために今回、「大産商店」の商標を取得するため知財学習を進めてきた。今後は、「大産商店」のブランディング化を進めていき、地域、学校の発展に尽力していきたい。



<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 商業部の活動



(写真2) 2年地域学の活動



(写真3) 商業部ラジオ収録



(写真4) 地域探究学 海鮮キムチ販売会



(写真5) 情報ビジネス科 アナゴラー油販売会

(特記すべき取組と成果)

## 南三陸産旨辛アナゴラー油の共同開発と販売会の取組について

「南三陸産旨辛アナゴラー油」は、本校情報ビジネス科3年生が、地域課題の解決を目的に、地元の水産加工会社と共同で企画・開発した商品です。南三陸町で水揚げされながら、骨が多く加工が難しいことから十分に活用されてこなかった未利用魚「クロアナゴ」に着目し、その価値を高めることを目指しました。



クロアナゴを丁寧に下処理し、旨味を生かしたフレーク状に加工しています。そこに唐辛子や香味野菜、ごま油などを加え、辛さの中にもコクと深い味わいを感じられるラー油に仕上げました。白いご飯はもちろん、麺類や炒め物、冷奴など幅広い料理に使える万能調味料です。高校生の学びと地域の食資源、持続可能な水産業への思いが詰まった、南三陸ならではの商品となりました。

商品のパッケージデザインも生徒が行い、生徒たちの思いが詰まった商品が完成しました。完成後は、南三陸町内外で販売実習を行いました。生徒たちは3年生ということもあり、これまでの培ったコミュニケーション能力を最大限に発揮して、商品のストーリーを伝えることを意識しながら接客し、商品は瞬間に完売しました。また、この商品化に向けて、商品の製造元である株式会社カネタ・ツーワン(株式会社ケーエスフーズ)様、国分東北株式会社様、k h b 東日本放送様と連携し、課題解決型学習のなかで多様な学びの機会をいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。





本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。  
 本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



**取組内容① (写真1)**  
**アドバイザーによる出前講義**



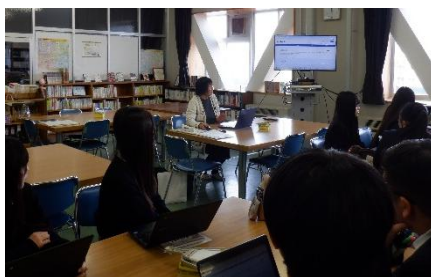
**取組内容② (写真2) 先進校視察**  
**淀商モールに向けた取り組み**



**取組内容③ (写真3) スクールキャラクターの創作(講座)**



**取組内容③ (写真4・5) スクールキャラクターの創作(生徒作品)**

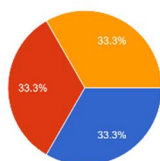


**取組内容④ (写真6) INPIT 山形担当者による講話と相談**



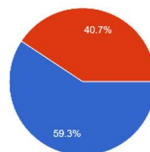
**取組内容⑤ (写真7) 米粉食品の開発**

講義前の知的財産権についての理解度はどの程度でしたか。  
 27件の回答



● よく理解していた  
 ● 理解していた  
 ● あまり理解していなかった  
 ● 全く理解していなかった

講義後の知的財産権についての理解度はどの程度でしたか。  
 27件の回答



● よく理解していた  
 ● 理解していた  
 ● あまり理解していなかった  
 ● 全く理解していなかった

(グラフ1・2)

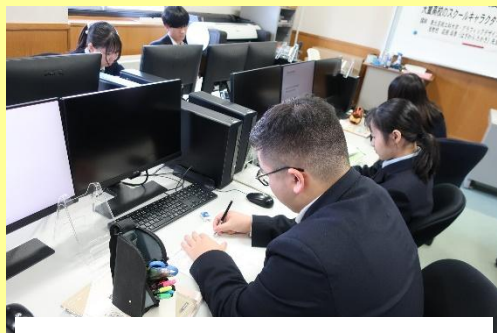
**取組内容①～④の成果 (指導前後の比較)**

**スクールキャラクターの創作について**

先進校2校におけるスクールキャラクター等の活用を踏まえ、東北芸術工科大学の特別講座を実施。感染症による年次閉鎖があって予定を変更して行うことになったが、講義中心の2時間(12/9)と実習中心の2時間(12/6)、計4時間で3年次ビジネス総合系列の生徒25人を対象に実施した。キャラクターを創作するポイントや活用する際の意味づけなど実例を交えながら行っていただいた。

<生徒の感想・振り返り>

- ・キャラクターだけでなく、商品の形そのものが商標登録されており、名前にも商標登録がされていることが分かった。また、キャラクターの表情を変えずに使うほうが商品を見る人に対してわかりやすくなることも分かった。
- ・目的によって商品登録する所が異なるのが面白いと思った。商品をよりよくしていくためにどの部分を商品登録するかをきちんと考えてく必要があると思った。



**生徒による取り組みの様子 (写真)**

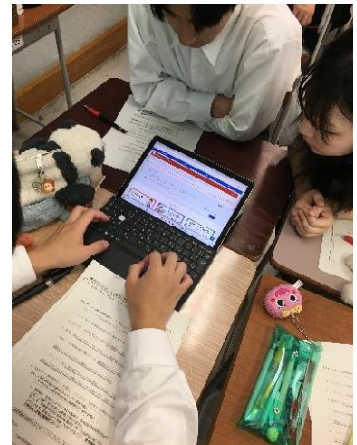




(写真1, 2) 株式会社明治様による講演



製品パッケージから「商標」を探す生徒



(写真3～5) 親泊アドバイザーによる知的財産権、J-PlatPat の活用方法に関する講演



(写真6) 商標登録についての調査報告



(写真7) 本校校長から登録についてのヒアリング

(特記すべき取組と成果) 企業事例に学ぶに産業財産権の活用についての講演

**教科書の内容への理解が深まった**

3年生の選択科目である「商品開発と流通」及び「ビジネス法規」には、どちらも産業財産権に関する単元がある。

株式会社明治様の講演を2科目合同で聴き、普段とは違う環境の中で、事例を基づく授業が行われ積極的に参加している生徒が多く見受けられた。



(写真) 質問する生徒の様子



<写真・図表等掲載欄>



「知的財産権を理解する」講演会



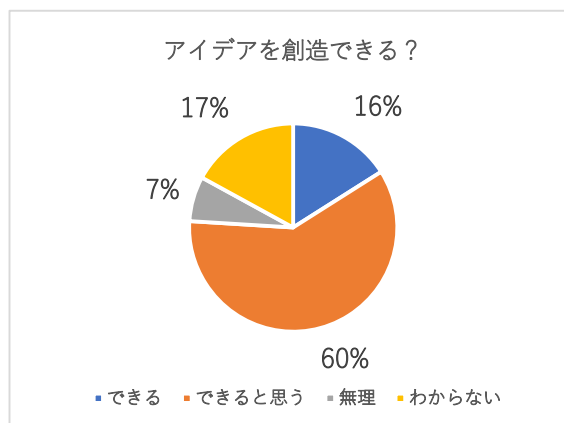
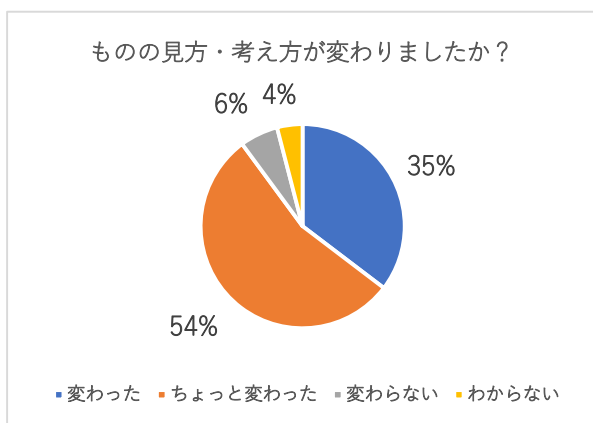
「ものの見方・考え方 観察力を磨こう」講演会



「農業で婚活 都市農業」講演会



アンケート：ビジネスをおこなう上で、どんなスキルが必要だと思いますか。(21%)の生徒が発想力と回答



「ものの見方・考え方 観察力を磨こう！！」講演会后アンケート

## 学校設定科目 \*1「ビジネスアイデア」

\*1「ビジネスアイデア」：東京都教育委員会が、2年次に、企業などに関する課題解決学習を通して、マーケティングに関する専門的な知識と技術を習得させ、ビジネスについて創造的に考える能力と態度を育てることをねらいとした学校設定科目「ビジネスアイデア」を設定している。

### 具体的な計画

- ・タイトル：「発想法を学んでワークショップで実践」
- ・取組詳細・狙い：「会社経営等の視点から商品・サービスについてアイデアを学ぶ」  
「高校生ならではの豊かな発想や着眼点を養う」
- ・期待する成果：人々の生活や世の中の仕組みの改善、地域・社会に貢献できるオリジナルでアイデアに満ちたプランについて主体的に取り組むことで、実際ビジネス活動を体験する機会の拡大を図ることができる。また、**企業や商店街等との連携**をすることで地域貢献および地域活性化を図ることができる。



立川法人会との連携



本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。  
本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



取組①オリジナルキャラクターの作成



取組①小田原市へのプレゼン発表



取組②パッケージデザインの考察



取組④オリジナルカレー作り



取組⑤DTMを通して知財について考察



取組⑥地域伝統工芸の新たな価値の創造

## Well being を踏まえたパッケージデザインの考察

課題研究「地域活性化と貢献活動」の生徒を対象に産業能率大学 情報マネジメント学部の中野先生とゼミ生の皆さんをお招きし、パッケージデザインから学ぶ表現力「Well being×色彩科学を応用したパッケージデザイン」についての体験型の講義が行われました。身近なグリコのお菓子を題材とし、商品の魅力やコンセプトが消費者に伝わるように、パッケージの色や形、キャッチコピーにどのような工夫が凝らされているかを分かりやすく解説していただきました。その後、生徒たちはグループに分かれ、「自身が考える Well being を踏まえたパッケージデザイン」を考えるワークショップに挑戦しました。大学生からアドバイスをもらいながら、ターゲット層や商品の特徴を熱心に議論し、ユニークなアイデアを次々と発表する姿が見られました。その後の授業では J-PlatPat を活用し、グリコのパッケージの意匠などを確認し、普段目には見えていない商品には様々な権利があり、それが価格に転嫁されていることを確認する良い機会となりました。





年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について	
取組番号・内容	②ダブル EX プロジェクト「全国の高校生とデザイン思考ワークショップ」
成果内容	本イベントでは、全国から集まった200名の高校生が、デザイン思考を用いたワークショップを行い知的財産の大切な要素である「創作」について学び体験することができた。特に、学校や地域、学科の枠を超えた交流を通して、多様な価値観や考え方に触れる機会となり、生徒にとって視野を広げる貴重な体験となった。
生徒・学生に見られた変化	自分の意見を積極的に発言しようとする姿や他社の意見を尊重しながら議論する態度、情報収集しそれをアイデアにまとめる力などを身につけることができた。全国の高校生と協働した経験から、挑戦することの楽しさを知ることができた。
その根拠	アンケート結果から参加生徒の90%以上が本イベントに満足したと回答し、非常に好評な取り組みだったと実感した。
課題・反省点	会場が大きさに限りがあったため、参加生徒が一部の生徒に限られていた点が課題として挙げられる。また、時間的制約もあり、知的財産権の制度や具体的な活用事例まで十分に理解を深めるには至らなかった。
今後の展望	全国の高校生と共に知的財産権を学ぶことの大きな可能性を感じる事ができた。学校や地域の枠を超えた協働学習は、生徒の視野を広げるだけでなく、知的財産権を「身近なもの」として捉えるきっかけとなる。今後は産業教育フェア全国大会において協働発表を行うことや複数校が連携した商品開発プロジェクトなどを企画していきたい。

本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。



「ダブル EX プロジェクト」全国から集まった高校生とデザイン思考ワークショップを実施。



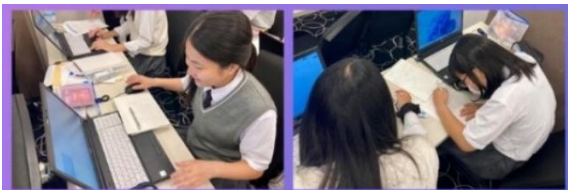
大阪関西万博で開催された「明日を変える知財のチカラ」イベント  
最新XR技術体験をおこない知的財産権について学ぶ。



全国産業教育フェア福島県大会にて自ら構築したメタバース空間の説明を生徒自身が行う。知財学習の成果も発表。



小学生向け自由研究イベント  
「チャレンジキャンプ24」  
ペーパータワーチャレンジに  
参加してもらう



1年生がはじめてパテントコンテストに応募した。



コクヨ株式会社  
社内の知的財産についてだけでなく、弁理士や知的財産にかかわる仕事の紹介を講義いただいた。



東淀工業高校と合同で、チキンラーメン発明記念館へ社会見学  
交流しながら知的財産権について学ぶことができた。

## AKINDO SPARKLE 株式会社【商業×工芸×工業】

令和6年2月2日に高校生が運営するホンモノの株式会社「AKINDO SPARKLE 株式会社」を登記した。この株式会社の特徴は、本校定商業高等学校だけでなく、大阪府立住吉商業高等学校、工芸高等学校、東淀工業高等学校と連携し運営している。12月第2週目土曜日に開催する「淀翔モール」で、新商品の発表を行っている。

この度、AKINDO SPARKLE 株式会社の商標登録に向かって準備を進めている。



## 令和 7 年度 実践事例報告書

学校番号	商 08	学校名	大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校	担当教員名	末澤 篤
ねらい	<input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育・ビジネス体験 <span style="margin-left: 150px;"><input checked="" type="checkbox"/> 知的財産や社会制度への理解促進</span> <input checked="" type="checkbox"/> 生徒の能力育成（創造性・主体性・表現力等） <span style="margin-left: 150px;"><input checked="" type="checkbox"/> 外部との連携強化・地域産業への理解促進</span> <input checked="" type="checkbox"/> 指導体制の構築・教員のスキル向上 <span style="margin-left: 150px;"><input checked="" type="checkbox"/> 学校の特色や専門性の強化・生徒募集</span> <input type="checkbox"/> その他（ ）				
関連法	<input checked="" type="checkbox"/> 特許・実用 <input type="checkbox"/> 意匠 <input checked="" type="checkbox"/> 商標 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
年間の取組内容		対象者・実施機会等	該当する要素の番号	知財学習の要素	
①	IP ePlat を利用した e ラーニング	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,6,7,11,12	創造	<input checked="" type="checkbox"/> (1)創造性を鍛える
②	担当教員研修	教員・グローバル経済	1,2,6,7,11,12		<input checked="" type="checkbox"/> (2)情報を利用する能力
③	発想体験ワーク	GB 科 3 年・グローバル経済	1,3,4,7		<input checked="" type="checkbox"/> (3)発想・技術を表現する能力
④	知的財産教育学習	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,7,12		<input checked="" type="checkbox"/> (4)観察力を鍛える
⑤	SocialDreamContest への取り組み	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,6,7,12		<input type="checkbox"/> (5)技術を体系的に把握する能力
⑥	日本弁理士会主催 ビジネスコンテストへの取り組み	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,6,7,12	保護	<input checked="" type="checkbox"/> (6)商品や社会とのつながりの理解
⑦	関西 NBC B-hack High school ビジネスコンテストへの取り組み	GB 科 3 年・グローバル経済	1,2,3,4,6,7,12		<input checked="" type="checkbox"/> (7)保護・尊重する意識
⑧	知財特別講義→アドバイザーを招いて	GB 科 3 年・グローバル経済	4,6,7		<input checked="" type="checkbox"/> (8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨	特許庁→大阪大学教授を招いての講義	GB 科 3 年・グローバル経済	4,6,7		<input checked="" type="checkbox"/> (9)手続の理解
⑩	パテントコンテストへの取り組み	GB 科 3 年・プレゼンテーション技法	1,2,3,6,7,8,9	活用	<input type="checkbox"/> (10)権利を活用する能力
⑪					<input checked="" type="checkbox"/> (11)産業や経済との関係性の理解
⑫				知識	<input checked="" type="checkbox"/> (12)制度の学習
⑬		※GB（グローバルビジネス）			<input type="checkbox"/> (13)専門家、資格制度に関する知識
取組目標の達成見込	概ね達成（7割以上）	その理由 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・教員、生徒ともに知財についての観点、知識がほぼ皆無の状況から初年度にも関わらず知財の必要性を感じる担当教員の割合が 50%から 83%に向上。 生徒に関しては知財に関心を持つ生徒の割合が約 30%から 87%に向上。 ・ビジネスコンテスト応募に取り組みの中で、商品や社会とのつながり理解が深まり、アイデアを保護、尊重する意識の変化が見られた。		
取組の状況 具体的な数値を用いて記載をお願いします	・INPIT の「MIRAIをつくる」教材を用いた、アイデア創出体験、構想力・観察力・突破力・共感力の向上トレーニングを実施。 ・アドバイザー、弁理士（特許庁から大阪大学へ出向）を招いての知財特別講義を 2 回、計 3 時間実施。商品や社会とのつながりや産業や経済との関係性、アイデアを保護・尊重する意識などを学んだ。（写真 1） ・4 つのビジネスコンテストへのエントリーを実施。そのうち B-hack High school ではグランプリおよび特別賞を受賞した。（写真 4）				
年間の取組のうち、最も重視した取組又は成果のあった取組等について					
取組番号・内容	⑦関西 NBC B-hack High school ビジネスコンテストへの取り組み				
成果内容	・大阪・関西万博会場にて実施され、全国から選抜された本選出場者 21 名のうち 4 名が選出された。そのうち 2 名は <b>グランプリ</b> と <b>特別賞</b> を受賞することができた。プレゼン技術はもちろん、知財の観点を学んだことにより既出ではないアイデアを創出し、その創造性を評価していただいた。 ・知財学習についての「授業計画」「授業スライド」を作成し 6 クラスで展開。次年度も引き続きこれらをもとに授業を展開される予定であり、知財学習の継続性と土台作りが進んでいる。				
生徒・学生に見られた変化	・ビジネスコンテストへエントリーする中で、アイデアを保護・尊重する意識が向上した。 ・プレゼン発表原稿の中に、知財の観点が盛り込まれる生徒も少数ではあるが見られるようになった。				
その根拠	・知財に関心を持つ生徒の割合が約 30%から 87%に向上した。（グラフ 1）				
課題・反省点	・本事業に採用された時点ですでに各科目年間の取り組みが組まれており、授業時間が十分に確保できたかった。そのため、知財に関する知識がまだまだ定着したとは言えず、ビジネスアイデア等で創造領域に触れることはできたが、保護、活用領域については不十分であった。 ・知財に関する授業に取り組んでもらった指導教員の知財に関する知識がまだまだ未熟であるため、まずは必要性を理解してもらう必要がある。				
今後の展望	・授業担当者以外の商業科教員全体への理解を促進し、科全体で取り組む体制の構築をめざしたい。				

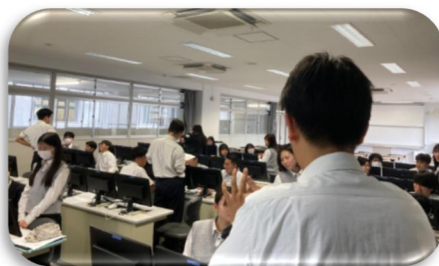
本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。

本報告書の内容は、各校での知財学習の取組全体を記載しているものであり、本事業の活動経費支援を利用していない取組を含む場合があります。

<写真・図表等掲載欄>



(写真1) 知財特別講義の様子



(写真2) アイデア創出授業風景



(写真3) ビジコン応募作品

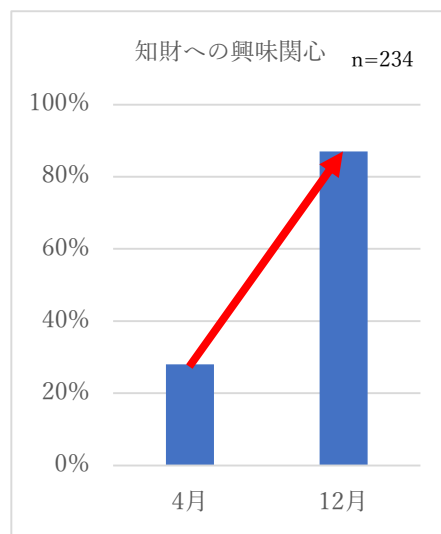
さっきの注文、どんな気持ちで購入しましたか

- 「締め切り・テストで時間が無くて急いでいた」  
経験：時間的余裕がなくなる(授業)の可能性
- 「忘れていて手順を省きたかった」  
経験：優秀による利便性選択(優秀=消耗品)
- 「友達・相手に合わせた/誘われた」  
経験：社交的要素/本人の単発意思ではない場合あり
- 「特に理由はなく何となく(その他)」(+自由記入)  
経験：予測が難しい/フリ/テスト(深慮)

1 かな、急いでたと思う。

record

money + emotion



(写真4) ビジコン応募内容 (グランプリおよび特別賞)

(グラフ1) 知財に関心を持つ生徒の割合

(特記すべき取組と成果) 日本弁理士会主催 ビジネス/技術アイデアコンテストへの取組および

各ビジネスコンテストでの成果について

本校の取り組む「ビジネスアイデア創出」「各種コンペへのエントリー」「グループワークによるコミュニケーション、ピッチ能力の向上」と知財学習とをどのように授業の中へ落とし込み、体系的に授業計画を構築するのか、ここに焦点を当てて取り組みを開始した。

INPIT 学習教材を複数使用し、授業・自主学習の中で知財についての知識を深めた。

その中で、日本弁理士会主催のビジコンでは、大阪・関西万博会場で技術体験会を行い、その体験をもとに新しい『ビジネス/技術アイデア』創出に取り組んだ。各グループに1名の弁理士がアドバイザーとして帯同していただき、当日のワークショップから後日のオンラインミーティングまで関わりが継続。生徒はこの体験を通し、知財に関して多くの知見を得る機会に恵まれた。また、知財学習に取り組んだことで、現存しないアイデアを創出することにつながり、多くの審査員から評価していただいた。今後は、アイデア創出に留まらず、特許や商標への出願も視野に入れて授業の構築を図っていきたいと考えている。



万博会場内未来の技術体験会の様子



各コンテストで受賞



<写真・図表等掲載欄>

		
写真1 自動水やり装置と水耕栽培	写真2 弁理士 産業財産権の講義	写真3 商品開発 放置竹林の伐採
		
写真4 商品開発 工業技術センター	写真5 特許庁訪問	写真6 企業訪問（富士電機）

## 株式会社NAGAZON

本校は兵庫県神戸市長田区にある定時制商業高等学校です。2022年2月に生徒が中心となり株式会社を設立しました。その名も株式会社NAGAZON（ナガゾン）。本事業の支援を受ける2年目は①自動水やり装置と水耕栽培を利用した自立型農園の開発②産業財産権の講義と商標登録③商品開発④企業訪問に取り組みました。年間を通して22項目にわたって生徒の成長を評価しており、この期間に「自主性」、「課題解決力」、「チームワーク」といった、自己管理と協働に関するスキルを大きく向上させています。「自主性」が最も大きく向上しており、生徒が自主的に学習や活動に取り組む能力が大きく成長したことを示唆しています。

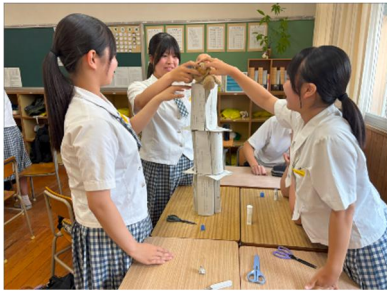


	4月	9月	増減
表現力	3.07	3.20	0.13
発表力	3.00	3.13	0.13
傾聴力	3.93	4.00	0.07
情報理解活用力	3.33	3.07	-0.26
ICT活用力	3.40	3.47	0.07
創造力	3.20	2.93	-0.27
自主性	3.53	4.00	0.47
継続力	3.87	3.93	0.06
チームワーク	3.00	3.33	0.33
リーダーシップ	2.47	2.33	-0.14
責任感	3.53	3.53	0.00
計画遂行力	2.60	2.80	0.20
リスクテイク	3.13	3.00	-0.13
キャリア設計力	3.13	3.13	0.00
課題発見力	2.93	2.93	0.00
課題解決力	2.53	2.87	0.34
メタ認知	3.33	3.20	-0.13
柔軟性	3.07	3.20	0.13
モラル&マナー	3.27	3.20	-0.07
対外関係調整力	2.93	3.20	0.27
地域貢献意識	2.67	2.80	0.13
グローバルな視野	2.53	2.47	-0.06

5：とても力がついた4：力がついた3：どちらでもない2：あまり力がつかなかった1：全く力がつかなかった



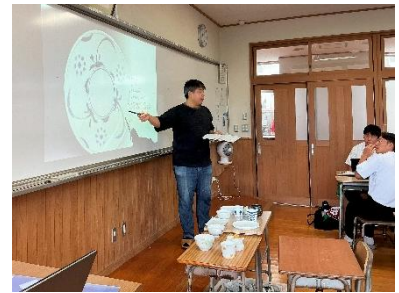
<写真・図表等掲載欄>



(写真 1) ペーパータワーの作成



(写真 2) J-Platpat の活用



(写真 3-1) 協力企業の講演会



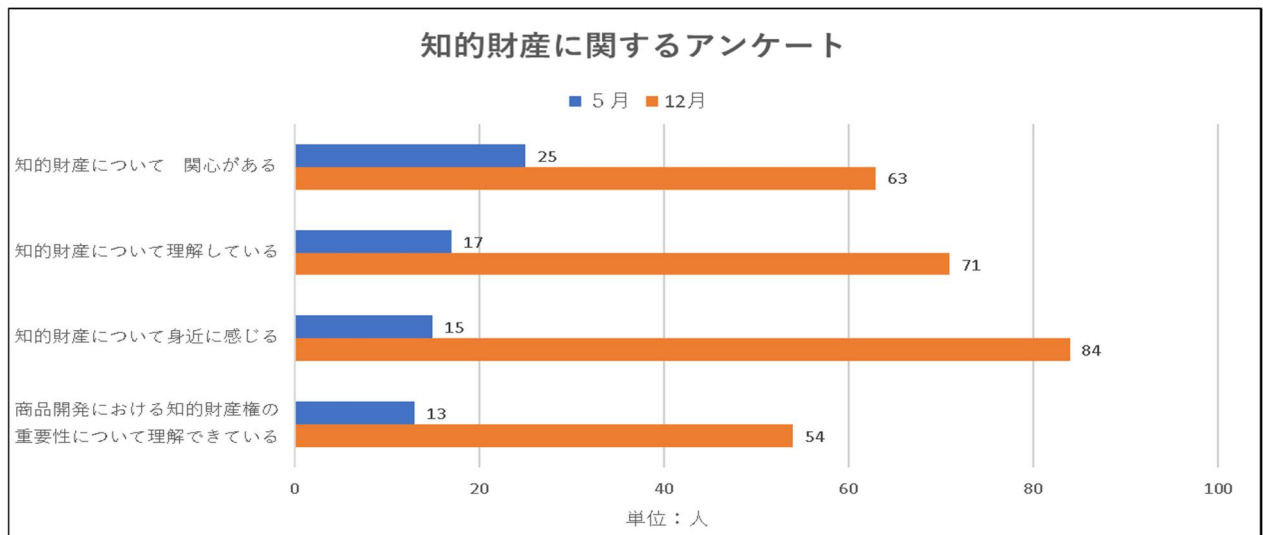
(写真 3-2) 協力企業の講演会



(写真 4-1) 開発商品の販売



(写真 4-2) 開発商品の販売



(グラフ) ※流通経済科2年生(112名)対象。数値は、各設問に「はい」と回答した生徒の人数。

### (特記すべき取組と成果) ヒット商品の誕生から知財の重要性を学ぶ

知財学習の導入として、世界知的所有権機関日本事務所が発行している知財学習教材「アイデアを伸ばそう」を活用した学習活動を実施した。この教材はインスタントラーメンという身近な商品を題材に取り上げており、創造的思考やアイデア尊重について学ぶことができた。現在では当たり前のように食べられているインスタントラーメンがどのように開発され、普及してきたのか、そしてその課程における知的財産の役割やそれらを保護することの重要性について理解を深めることができた。

この学習活動を通して、それまで知的財産に関心であった多くの生徒が、知的財産を身近なものとして捉え、関心を示すようになったと考えられる。また、生徒が想像以上に意欲的に活動に取り組んでいたことから、知財学習の導入として成功であったと評価できる。今後は、より実社会と結びついた知財学習を展開していくことで、生徒が「創る側」として社会に参画する意識を高められるよう、努めていきたい。